

一六、例へば農村に分散した工場は従来通勤労働者の稼働状態が悪い点に悩んでゐた。これは農業の特殊性を惹いて農村の諸慣習等、結局には農村労働者の規律觀念の缺如によるところ甚が多いのであるが、このことは逆に工場に對しては休日その他を出來得る限り地方事情を受け容るべく工場管理方式そのものを虚心坦懐に再検討することを要求するのである。

より基本的課題としては一般工場に於ても然りであるが、殊に農村工場に於ては（機械製造業の場合の如く）基幹労働者以外に未経験労働者を季節的に使用する上、又は部分品を家内工事に出すといふ問題がある。その為には生産組織の勘案、單能機械導入等の

前提が必要であらうか、かゝる方式は農村に對する工場側の理解と共感を前提として初めて成功せしめられるのである。工場は労働の仕拂方法や配給物資の採り方に至るまで努めて附近農村に對する影響を考慮して行はねばならない。農閑期餘剰労働力の利用、農繁期に於ける農村への勞力應援農機具修理等には既に幾多の成功的事例を見るのである。工場管理に農村的な事情を採り入れることは我國情の下に多くの工業の進むべき途がある。

一七、工場の地方分散が農民に對して収入源泉を多からしめ、醫務施設、娯樂施設等の利用に便宜を増さしめることは瞭かである。然し農村が工場に期待すべき